



2024年の市場の注目点

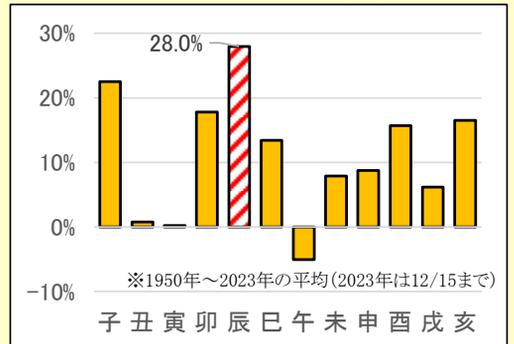
2024年は甲辰（きのえ・たつ）。西暦が4の倍数の年は、スポーツではオリンピックイヤーですが、政治においては米国大統領選挙が行われる重要な年です。

政治・経済など、2024年の市場に関する注目点を簡単に確認しておきましょう！

辰年の相場は・・・？

- 相場の干支格言では、「辰巳天井」と言われ、株価は辰年から巳年にかけて天井をつけやすいとされます。実際、過去の**日経平均の値動き**を十二支別で比べると、**辰年**は平均で28%上昇しており、**十二支中トップ**となっています。アノマリー（明確な理由のない経験則）ではありますが、2024年も**株価の上昇に期待したいですね！**

◇十二支別の日経平均騰落率

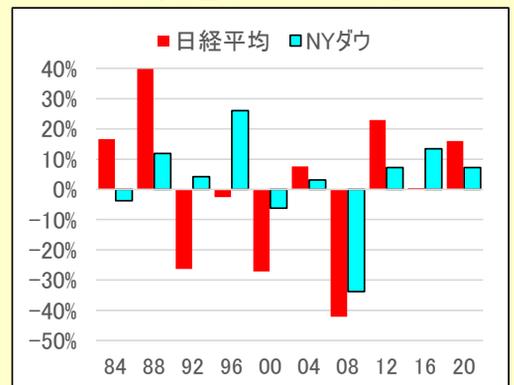


(出所)ちばぎんアセットマネジメント作成

政治の環境は・・・

- 2024年は**米大統領選挙**の年です。直近10回分(40年)を4年周期で比べると、大統領選の年は平均でNYダウが+3%、日経平均は+1%で、他の年と比べてあまり良いとは言えません。ただ、**前々回**は接戦の末の想定外のトランプ氏当選、**前回**は敗れたトランプ氏が選挙不正を訴えるなど**波乱**だったにもかかわらず、ともに**大統領選(11月上旬)から年末にかけて上昇**しました。
- 市場への影響が大きい大統領選挙、現時点ではバイデンvsトランプの構図が有力ですが、共和党ではヘイリー氏が少しずつ追いつけています。**候補者選**びは1月から始まり、**3月5日のスーパーチューズデー**(予備選集中日)で佳境を迎えます。
- **国内の政局**も混迷してきました。岸田首相は**9月末に自民党総裁任期満了**を迎えますが、任期を全うして続投するのか、あるいは2024年に**新総裁(新首相)**が誕生するのか、その場合**誰になるのか**、また**解散はあるのか**などは、市場に影響しそうです。
- 米中摩擦が強まる中で、台、露、印など新興国の指導者・議会の選挙も注目されます。

◇米大統領選挙の年の株価騰落率



(出所)ちばぎんアセットマネジメント作成

※上記は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。



経済の環境は…

- **米国経済**は堅調ですが、**足元**にはやや減速感もみられます。景気後退を回避する「**ソフトランディング**」が**メインシナリオ**ですが、後退するとの予想もあり、**見方は分かれています**。ただ**インフレ**は鈍化しており、FRBは2024年中に3回の利下げを見込んでいます。景気が想定以上に鈍化する場合には、さらなる利下げなど、**金融政策によるサポート**も考えられます。
- **日本経済**は7-9月期にマイナス成長に陥るなど、やや足踏み感もあります。ただ企業景況感の改善が続くなど**マインド**は良好で、景気は**緩やかな回復基調**が続きそうです。2024年も高めの**賃上げ**が期待されており、**日銀がいつ緩和縮小に動くのか**注目されます。
- こうした中、**企業業績**は日米とも2024年度にかけ**改善**が予想されています。

«このような環境下で、市場の見通しは…?»

【為替】予想される米国の利下げと日銀の緩和縮小を背景に、円高方向の動きが予想されます。

【株価】企業業績の改善や米国の利下げ期待などを背景に、日米とも底堅い推移が期待されます。リスクには米国を中心とした景気の変調や、日本株にとっては想定以上の円高進行などが挙げられます。

2024年の主要スケジュール

月	国内	米国	その他海外・国際イベント
1月	・ 新NISA開始 ・ 日銀金融政策決定会合(22-23日) ・ 通常国会開会	・ FOMC(30日-31日)	・ 台湾総統選挙(13日) ・ 世界経済フォーラム(ダボス会議、15-19日) ・ IMF世界経済見通し
2月			・ インドネシア大統領選挙(14日)
3月	・ 春闘集中回答日(12-14日) ・ 日銀金融政策決定会合(18-19日)	・ スーパーチューズデー(5日) ・ FOMC(19-20日)	・ ロシア大統領選挙(17日) ・ 中国全国人民代表大会(全人代)
4月	・ 物流業界等の時間外労働上限規制適用(1日) ・ 日銀金融政策決定会合(25-26日)	・ FOMC(30日-5月1日)	・ IMF世界経済見通し ・ インド下院総選挙(-5月)
5月			・ 台湾新総統就任(20日)
6月	・ 日銀金融政策決定会合(13-14日) ・ 所得税・住民税の定額減税	・ FOMC(11-12日)	・ G7サミット(伊、13-15日)
7月	・ 東京都知事選挙(7日) ・ 日銀金融政策決定会合(30-31日)	・ 共和党大会(15-18日) ・ FOMC(30-31日)	・ オリンピック(パリ、26日-8月11日) ・ IMF世界経済見通し
8月		・ 民主党大会(19-22日) ・ ジャクソンホール会議(金融シンポジウム)	・ パラリンピック(パリ、28日-9月8日)
9月	・ 日銀金融政策決定会合(19-20日) ・ 自民党総裁任期満了(30日)	・ 大統領候補討論会(16日) ・ FOMC(17-18日)	・ 国連総会・一般討論演説
10月	・ 日銀金融政策決定会合(30-31日)	・ 大統領候補討論会(1、9日) ・ FOMC(6-7日)	・ IMF世界経済見通し
11月		・ 大統領選挙・議会選挙(5日) ・ FOMC(6-7日)	・ G20首脳会議(伯、18-19日)
12月	・ 日銀金融政策決定会合(18-19日)	・ FOMC(17-18日)	・ 中国中央経済工作会議

(出所) ちばぎんアセットマネジメント作成

(注) 赤字は注目度大。スケジュールは確定したのものではなく、変更になることがあります。

※上記は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

- 本資料はちばぎんアセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。
- 本資料に掲載されている当社の意見ならびに予測は資料作成時点のものであり、予告なしに変更することがあります。また、本資料は当社が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当社が保証するものではありません。本資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを示唆あるいは保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。
- 本資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。